

令和6年度学校評価自己評価表(最終)

【校訓】正直に生活し 進んで学び 自己を守り 人と社会のために奉仕する

【学校教育目標】本校で学んだことに誇りをもち、高い志のもと「自立した社会人」として活躍できる生徒の育成

学校名(廿日市市立廿日市中学校)

評価計画						自己評価					学校運営協議会委員 評価コメント	改善方策
中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のため の方策	評価項目・指標	評価方法	目標値	中間 8月	最終 2月	達成度	評価	結果と課題の分析		
10年後、20年後の将来を見据え、生徒に身に付けさせたい資質・能力として、「思考力・表現力」「主体性」「自己有用感」を育成する	A「学びの変革」のさらなる推進	ICT 端末を活用した授業づくりのさらなる推進及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に係る研究	①<個別最適な学び> 【市共通項目】 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」と回答した生徒の割合 【現状値】92.2%	生徒アンケート 全国学力・ 学習状況調査	全生徒の 85%以上	生徒アンケート 92.0%	生徒アンケート 90.9%	生徒アンケート 107%	A	目標値を 5.9 ポイント上回りました。授業での ICT 端末の活用により、課題に個別で取り組みやすくなっていること、各教科で、課題解決学習を積極的に取り入れていることの効果が表れていると考えられます。全国学力・学習状況調査でも 3.3 ポイント上回っています。	今後もさらに ICT の活用を進め、教員同士が授業改善を行っていきけるような環境作りを行うとともに、生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導方法の工夫・改善に取り組んでいきます。	
			②<協働的な学び> 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。」と回答した生徒の割合 【新規】	生徒アンケート	全生徒の 85%以上	96.8%	97.6%	115%	A	目標値を 12.6 ポイント上回りました。今年度は、昨年度から導入しているロイロノートの活用が一層進み、多様な形態での意見交流が活発になったことが要因と考えられます。	今後も、ロイロノート等の授業支援アプリを活用し、協働しながら作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動を積極的に取り入れていきます。	
	(2)ユニバーサルデザインの考え方に基づいた授業づくり	多様な生徒への支援を行うための「焦点化」「視覚化」「共有化」を意識した授業の実践	③<ユニバーサルデザイン> 「ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくりを行っている」と回答した教員の割合 【現状値】92.2%	教職員アンケート	全教員の 90%以上	92.9%	88.9%	98.8%	B	目標値を 1.1 ポイント下回りました。今年度は、教職員の入れ替わりも多かったですが、年度当初から校内研修を行い、取組の足並みを揃えることができたことは有効であったと考えられる。	Q:課題はどうとらえているか。 A:ユニバーサルデザインを生かした授業は実践しているが、それがそうと意識されていないことから、若い教員や転動してこられた教員に分かりやすく声掛けをする必要があった。	新年度、転任されてきた教職員が本校の研究内容を理解できるように、年度当初の初期の段階で研修の機会を設けます。また、授業研究等を通して、お互いの授業力を高め合えるような研修の充実を図ります。
	B安全・安心な居場所づくり	(3)不登校や問題行動への対応と未然防止 【◎重点】	居心地のよい学級や学校を創る取組への価値付け	④<朝読書> 「朝読書を通して、落ち着いた朝の時間を過ごすことができている。」と回答した生徒の割合 【現状値】89.3%	生徒アンケート	全生徒の 90%以上	91.7%	91.2%	101%	A	目標値を 1.2 ポイント上回りましたが、全体の1割程度、机上整理が不十分な生徒がいます。図書委員会を中心に朝読書の取組を推進し、より落ち着いた環境となるように取り組む必要があります。	図書委員会で、現状の成果と課題について考えさせ、よりよい朝読書を目指すよう取り組みます。
				⑤<清掃活動>【小中共通項目】 「清掃活動を通して、居心地のよい学校づくりに貢献している。」と回答した生徒の割合 【現状値】93.8%	生徒アンケート	全生徒の 90%以上	95.6%	94.8%	105%	A	目標値を 4.8 ポイント上回りました。2学期から「無駄話のない清掃」と「気付き掃除」へと転換し、お互いに声を掛け合いながら時間いっぱい取り組めたことが要因と考えられます。	美化委員会で、継続して縦割り掃除のレベルアップを図ります。
			教育相談等を活用した生徒理解やアセス(学校環境適応感尺度)結果等に着目した学級集団づくり	⑥<自己有用感> 「自分のよさは、周りの人から認められている。」と回答した生徒の割合 【新規】	生徒アンケート	全生徒の 80%以上	88.9%	88.3%	110%	A	目標を 8.3 ポイント上回りました。行事や掃除、ブロック集会等、縦割り活動をより充実させる取組を、生徒が主体的に考えて実践できたことが自己有用感の向上につながっていると考えられます。	取組内容を精選しながら、生徒自らが自治を行い、達成感を味わうことができるようファシリテートしていきます。
				⑦<他者理解> 「相手の気持ちになって考えて行動する。」と回答した生徒の割合 【現状値】79.7%	アセス	全生徒の 80%以上	81.8%	83.5%	104%	A	目標値を 3.5 ポイント上回りました。行事等における学級活動や縦割り活動を通して、生徒同士が関わり合う場面を多く仕組み、相手の立場を考えた言動をする意識がけができたことが要因と考えられます。	グループアプローチを継続するとともに、SSTを取り入れることも検討します。
				⑧<個々に応じた居場所づくり> 不登校の生徒数が全校生徒に占める割合 【現状値】6.6%	諸課題集計表	不登校率 3.1%以下	4.2%	6.1%	69%	C	昨年度より、不登校率は0.5ポイント下がりましたが、依然として不登校率は6.1%と高く、目標値を大きく下回っています。心の教室や外部関係機関(子ども相談室等)も居場所の一つとなるよう取り組みましたが、目標達成には至りませんでした。生徒自身に必要感をもたせる(学習面等)ことが取組への第一歩になると考えられます。	・市民センターで、「おいでおいで赤ちゃん」など、小さい子供と関わるイベントもあるので、そういう場に積極的に参加してもらってもよい。地域がそのような場を提供することもできる。

